

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらう。
さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティ」のI（知性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

1. 情報活用に必要な数学1～N進法
2. 情報活用に必要な数学2～割合
3. 情報活用に必要な数学3～統計
4. 表計算のしくみ1～計算式
5. 表計算のしくみ2～論理式
6. 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
7. 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
8. 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
9. 情報検索の基礎3～情報管理の方法
10. 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
11. ビジネスとコンピュータ1～文書作法
12. ビジネスとコンピュータ2～簿記
13. 有価証券報告書の読み方1
14. 有価証券報告書の読み方2
15. まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学修

初回の授業が始まる前までに、テキストの前半部分を簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

プリントを配布する。

留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、心理学の成り立ち、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し人の心の基本的な仕組み及び働きについて基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

ヴントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉えるうえで、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのようなことであるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら概観する。

授業計画

1. オリエンテーション 心理学が誕生するまで
2. 行動主義と学習理論1
3. 行動主義と学習理論2
4. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学)1
5. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学)2
6. 発達心理学1
7. 発達心理学2
8. 認知心理学
9. 動機づけ・情動
10. 社会的行動理論
11. 人格の形成
12. 人格の評価
13. 臨床心理学1
14. 臨床心理学2
15. 総括・期末テスト

授業の方法

講義と単元内容（実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床）に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点30点、定期試験70%

欠席について

欠席は1回で3点、遅刻は2点の減点とする。欠席5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

『心理学の最先端』あいり出版 2013

参考図書

授業中に適宜紹介する。

留意事項

毎回小テストを実施するので、予習復習を徹底すること。小テスト結果は平常点に加算する。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

乳幼児教育に関する様々な理論の学習や教育実習他の経験を活かし、自分が興味関心をもったことについて、新たな知識と確かな情報を得る。適切な先行文献を選定することを通して、要約し考察する力と、記録する力、伝える力などの表現力を高める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

課題文献・資料を講読し、発表する。ディスカッションを経て新たな課題を見出す。考察力や伝える力、記録する力を高める一つの方法として、栽培活動や乳児向けの教材制作を行う。そして、自分の研究したい内容や方向性に見通しをもつようにする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 自然体験に関する課題文献・資料の講読
3. 文化体験に関する課題文献・資料の講読
4. ドキュメンテーションとポートフォリオ、ラーニング・ストーリーについて
5. 特別支援教育に関する課題文献・資料の講読
6. 防災教育に関する課題文献・資料の講読
7. 認定こども園、小規模保育所に関する課題文献・資料の講読
8. 食育に関する課題文献・資料の講読
9. 乳幼児教育におけるESD
10. 各自の興味関心ある内容の調査と発表①
11. 各自の興味関心ある内容の調査と発表②
12. 各自の興味関心ある内容の調査と発表③
13. 各自の興味関心ある内容の調査と発表④
14. 文献検索の方法と実際について
15. まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。学生が作成した資料にもとづく発表、ディスカッションを通して、多面的な理解や気づき、新たな課題を得られるようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①課題レポートやリフレクションシート他の提出を毎回求め、授業内にフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

自ら進んで課題研究に取り組み、提出物の期限を守ること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、問題意識を持って具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

様々な心理臨床領域における心理学の研究論文を文献講読する。学生が各自、関連する文献を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 全員で共通の文献講読1
3. 全員で共通の文献講読2
4. 全員で共通の文献講読3
5. 共同研究のためのリサーチの準備
6. リサーチ・結果の処理・データ入力
7. リサーチ・結果の処理・データ入力
8. リサーチ・結果の処理・データ入力
9. リサーチ・結果の処理・データ入力
10. リサーチ・結果の処理・データ入力
11. リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成
12. 共同研究の発表の準備
13. 共同研究の発表の準備
14. 共同研究の発表の準備
15. 全体の振り返りと、個人のテーマの評価

授業の方法

教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身に付ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

共同研究への取り組みと課題の提出状況を評価する。

欠席について

一回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎回の授業で提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰを通して、ドキュメンテーション作成の基本技術を習得する。また、各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自が研究したい内容について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てるようにし、演習Ⅲへの見通しをもつ。

授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について
2. 質問紙法について
3. 非構造的面接法について
4. 概念抽出までの手続き
5. 研究活動における倫理
6. 実地研修①
7. 実地研修②
8. 実地研修のまとめ③
9. ドキュメンテーションを使ったプレゼンテーション
10. 研究マップ発表
11. 仮研究テーマでのミニ論文発表①
12. 仮研究テーマでのミニ論文発表②
13. 仮研究テーマでのミニ論文発表③
14. 研究計画、研究方法の検討
15. まとめを行ってから試験をする

授業の方法

伝えやすく、分かりやすい資料作成をもとに、毎回発表し合う。ディスカッションにより、根拠や理由、原因や課題などを見出すようにし、互いの発表内容を高めていくようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

『保育学研究倫理ガイドブック』（株/フレール館）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

提出物は設定された期限までに提出すること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 共同研究発表の準備
3. 共同研究発表の準備
4. 共同研究発表の準備・反省会
5. 各自のリサーチ発表1
6. 各自のリサーチ発表2
7. 各自のリサーチ発表3
8. 研究法・手続きについての話し合い1
9. 研究法・手続きについての話し合い2
10. 各自のリサーチ発表4
11. 各自のリサーチ発表5
12. 各自の研究計画の立案と発表4
13. 各自の研究計画の立案と発表5
14. 卒業研究発表・質疑応答の練習
15. まとめ

授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文のリサーチ・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

共同研究への取り組みの状況と、毎回の提出課題を評価の対象とする。

欠席について

欠席は1回につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の提出する論文の要約文を元に文献講読を実施するため、テキストはその都度適宜紹介することとする。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎週提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究法や分析の方法についても復習する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.リサーチ1・発表・ディスカッション1
- 3.リサーチ2
- 4.リサーチ3
- 5.リサーチ4
- 6.各自の研究の問題と目的について設定・発表
- 7.各自の研究の研究法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション1
- 8.進行報告2
- 9.進行報告3
- 10.調査報告1
- 11.調査報告2
- 12.調査報告3
- 13.結果のまとめ方について1
- 14.結果のまとめ方について2
- 15.結果のまとめ方について3

授業の方法

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究法や分析の方法についても復習する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

毎週の課題の提出状況と演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題の提出は毎週とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容からテーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

授業の概要

研究テーマに沿って提出までの計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

授業計画

- 1.演習の進め方
- 2.卒業研究のテーマ
- 3.研究発表と討議①
- 4.研究発表と討議②
- 5.研究発表と討議③
- 6.研究発表と討議④
- 7.研究発表と討議⑤
- 8.研究発表と討議⑥
- 9.研究発表と討議⑦
- 10.研究発表と討議⑧
- 11.研究の進め方①
- 12.研究の進め方②
- 13.研究の進め方③
- 14.研究の進め方④
- 15.まとめと今後の取組

授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①レポートは、担当教員による批評とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

研究テーマを念頭に置いて、文献・資料を自主的に収集すること。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)I(知性)E(倫理)を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

授業計画

1. 分析結果報告・仮説の検証①
2. 分析結果報告・仮説の検証②
3. 分析結果と考察①
4. 分析結果と考察②
5. 分析結果と考察③
6. 分析結果と考察④
7. 分析結果と考察⑤
8. 研究のまとめと総合考察①
9. 研究のまとめと総合考察②
10. 今後の課題について
11. 分析結果一覧表の作成
12. 卒業研究の校正①
13. 卒業研究の校正②
14. 最終報告とまとめ①
15. まとめ②を行ってから試験をする。

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意識と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、 小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

授業計画

1. 調査結果のまとめ1
2. 調査結果のまとめ2
3. 調査結果のまとめ3
4. 結果報告1
5. 結果報告2
6. 結果報告3
7. 結果報告4
8. まとめと考察1
9. まとめと考察2
10. まとめと考察3
11. 要約作成・発表1
12. 要約作成・発表2
13. 要約作成・発表3
14. 研究発表1
15. 研究発表2

授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題の提出状況、演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

1回の欠席につき5点、遅刻につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する

留意事項

心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
知覚・認知心理学			17331	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることの理解を深める。人の感覚・知覚等の機序及びその障害、また、人の認知・思考等の機序及びその障害についても理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

見る、聞く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということ、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察してゆく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 人間の知覚的特性: 視覚
3. 人間の知覚的特性: 聴覚
4. 人間の知覚的特性: 運動感覚と認知
5. 人間の知覚的特性: 空間知覚
6. 注意と記憶1
7. 注意と記憶2
8. イメージ処理
9. 言語と談話理解1
10. 言語と談話理解2
11. 推論と問題解決
12. 思考と言語1
13. 思考と言語2
14. 社会的認知
15. まとめと期末テスト

授業の方法

講義と単元内容に相当した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決などについての課題に実験などの活動を通じて毎時間回答しながら学習をすすめる。レポート作

成が課題となる。また小テストも実施する。

準備学修

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

『心理学の最先端』末田啓二編著 あいり出版 2013

留意事項

毎週実験を実施するため、欠席した場合は必ず補習を受け、実験レポートを提出すること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学統計学			17339	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
須崎 暁世	選択	2				

授業の到達目標

心理学で用いられる統計手法の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味と、統計に関する基礎的な知識について解説する。講義は、できる限り具体的なデータを学生が扱い、実際の統計の手法について触れ、記述統計から推測統計まで、処理プロセスと統計手法、個々の概念について学んでゆく。

授業計画

1. データの性質について①
2. データの性質について②
3. データの表現
4. 代表値(平均値など)と散布度
5. 標準化とは何か
6. 相関係数とは何か①
7. 相関係数とは何か②
8. 標本と母集団①
9. 標本と母集団②
10. 統計的仮説検定の考え方①
11. 統計的仮説検定の考え方②
12. ノンパラメトリックな検定
13. 平均値の差の検定
14. データの分散と条件の比較
15. 試験

授業の方法

講義と単元内容と相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値、散布度、標準化、相関係数、カイ二乗検定、t検定など具体的な計算や検定作業を行いながら、レジュメと教科書を用いて学習を進める。

準備学修

事前に記述統計の基本について、復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジュメを読み込み、毎日20分程度、予習・復習すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

参考図書

石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書
吉村寿夫 1998 本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
田中敏・山際一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
南原風朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

留意事項

本講義では「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学実験			17342	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。実験実習を通して「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から記憶までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.心理学実験と統計の基礎知識
- 3.知覚1ーミューラー・リヤー錯覚
- 4.知覚2ーミューラー・リヤー錯覚
- 5.認知・学習1ー鏡映描写
- 6.認知・学習2ー鏡映描写
- 7.記憶と忘却1
- 8.記憶と忘却2
- 9.要求水準1
- 10.要求水準2
- 11.日常記憶1
- 12.日常記憶2
- 13.社会的促進1
- 14.社会的促進2
- 15.まとめ

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。各実験レポートを作成する。（10

時間)

課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理的アセスメント			17344	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、 小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心理的アセスメントの目的及び倫理、そして心理的アセスメントの観点及び展開について学ぶ。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を実際に体験し、その分析結果を適切な記録及び報告としてまとめることが出来るようになる。基本的な心理検査を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深めるために、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被験者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1.はじめに：心理検査法概論
- 2.東大式エゴグラム
- 3.矢田部・ギルフォード性格検査
- 4.コーネルメディカルインデックス
- 5.BIG FIVE尺度
- 6.津守・稲毛式乳幼児発達診断1
- 7.津守・稲毛式乳幼児発達診断2
- 8.遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9.新版K式発達検査①
- 10.新版K式発達検査②
- 11.新版K式発達検査③
- 12.WISC知能検査①
- 13.WISC知能検査②
- 14.WISC知能検査③
- 15.総括・期末試験

授業の方法

毎回テーマとなる検査を実施し、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

全てのレポート作成と提出で合格となるため、欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

『心理的アセスメント』の手引き（中植満美子）開成出版より出版予定。本年度までは、資料として授業中に配布予定。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法			17345	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
須崎 暁世	選択	2				

授業の到達目標

心理学における調査法の基本的な考え方を理解するとともに、それを実際実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込み、評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究のとりわけ調査法について、統計的な手法を用いたデータ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。論文などの具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法を、問題の設定、質問紙等の作成から、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。また、その際に必要な研究倫理についても学ぶ。

授業計画

1. 調査研究の方法①
2. 調査研究の方法②
3. 調査研究の方法③
4. 質問紙作成の基礎
5. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法1
6. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法2
7. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の集計とデータ表現
8. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成1
9. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成2
10. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成3
11. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用1
12. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用2
13. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用3
14. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用4
15. 試験

授業の方法

講義と単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順を教科書を中心に、レジュメ等の資料を基に学びながら、学習を進める。

準備学修

事前に心理統計学の基本的な用語や計算手法を復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジュメを読み込み、毎日20分程度、予習・復習すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房

参考図書

田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
宮本聡介・宇井美代子編 2014 質問紙調査と心理測定尺度一計画から実施・解析まで一 株式会社サイエンス社

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達障害論			17361	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

人格形成に影響を与える諸要因について学び、他者理解や自己理解、そして自己成長の手がかりとなる知識を得る。人格理論を学びながら、よりよい人間関係を築くための思いやりの心や共感性を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

人格の発達の諸理論と、人格形成に影響を与える要因について、また、人格の成長を阻害する要因と、人格の障害とはどのようなことであるかについて理解を深める。また心理査定や心理療法の事例を通じて、「自分」や「他者」のこころを理解し、人格心理学の知識を今後の人生や社会生活の中で活かしていけるように、演習等を交えながら、体験的に知識を身につける方法を学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション 人格とは
2. 人格を知る方法(心理テスト)
3. 人格の発達について1
4. 人格の発達について2
5. 人格の発達について3
6. 人格形成に影響を与える要因について1
7. 人格形成に影響を与える要因について2
8. 人格の形成を阻害する要因について1
9. 人格の形成を阻害する要因について2
10. 子どもの心の問題
11. 問題行動と性格
12. 不適応と病理(演習)1
13. 不適応と病理(演習)2
14. 不適応と病理(演習)3
15. 不適応と病理(演習)4. 期末テスト

授業の方法

人格理論を復習後、心理査定の各自の結果と事例報告とを比較検討する。人格に影響する要因について実際のケース報告を元に討議する。人格の病理について演習を実施する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

その都度資料を配布する。

参考図書

鈴木乙史・佐々木正弘著 『人格心理学—パーソナリティと心の構造—』2006 河出書房新社

留意事項

講義内で紹介された文献、文学作品、映像作品について、各自で確認しておく。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習 1 (心理テスト法)		17373	Ⅲ	春	20名まで (超過の場合は資格取得予定者を優先する)
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
中植 満美子	選択	1	臨床心理士、教育相談員(神戸市教育委員会)、 小・中スクールカウンセラー(神戸市)		

授業の到達目標

心理臨床現場(保健所、児童相談所、病院など)における幼児期の発達状況を捉え、発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被験者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1.はじめに 心理テスト概論
- 2.心理検査法実習の復習
- 3.P-Fスタディ①
- 4.P-Fスタディ②
- 5.文章完成法 SCT
- 6.内田クレペリン作業検査
- 7.新K式発達検査④
- 8.新K式発達検査⑤
- 9.WISC知能検査④
- 10.WISC知能検査⑤
- 11.バウムテスト
- 12.風景構成法
- 13.スクイグル法
- 14.箱庭療法①
- 15.箱庭療法②・統括・期末テスト

授業の方法

実習形式で行い、検査結果を分析し、所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

テキスト

『臨床心理学実習 心理テスト法』の手引き(中植満美子)開成出版より出版予定。本年度は授業中に資料配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

定員20名までとし、超過する場合は資格取得予定者を優先する。レポート課題の提出は、実習の翌週とする。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習 2 (カウンセリング法)		17377	Ⅲ	秋	20
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
津田 明子	選択	1	大学病院心療内科学講座研究員、スクールカウンセラー 大学学生相談室、一般病院心療内科勤務		

授業の到達目標

授業の中でさまざまな実習を体験し、そこからカウンセリングにおける人間関係やカウンセラーに必要な姿勢など、カウンセリングの専門性とは何かについて考えてもらう。そして、さまざまな実習体験の中で自身がどのように感じ、考えたか、自身のこころの動きをしっかりと見つけ、自分と向き合う体験をレポートにまとめられるようになることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)について考えます。

授業の概要

心理療法、特にカウンセリングについての基本的な知識、カウンセラーとクライアントとの関係性を中心に実習と講義を行う。そして実習を通して「信頼感」、「共感」、「純粋性」などについて考える。最終的には、疑似ケースを使ったカウンセリング実習を行い、実際のカウンセラーとクライアントの心の動きやプロセス、カウンセラーに必要な姿勢などを自身の振り返りやカンファレンスから考えていく。自身がどのように感じ、考えるかを大事にし、授業を進めていく。

授業計画

- 1.自己紹介実習
- 2.信頼実習
- 3.感情と行動の実習
- 4.コミュニケーション実習①
- 5.コミュニケーション実習②
- 6.助言の実習
- 7.ロールプレイ実習
- 8.心理臨床を学ぶー心理療法とカウンセリング
- 9.[宝探しの地図]実習
- 10.コンセンサスの実習
- 11.共感と純粋性の実習
- 12.カウンセリング実習・振り返り①
- 13.カウンセリング実習・振り返り②
- 14.カウンセリング実習・振り返り③
- 15.カウンセリング実習・振り返り④、総括

授業の方法

グループやペアによる実習とその振り返りを中心に授業を進めていく。

準備学修

臨床心理学の授業の内容を復習しておくこと。また、毎日社会で起きている様々なニュースに関心を持ち、臨床心理学的な観点でそれらについて考えてみる。

課題・評価方法

①毎時間、実習終了後に全員でのディスカッションと担当教員によるフィードバックを行う。

②平常点70%、定期試験30%にて評価を行う。

欠席について

実習が中心のため、事前連絡なしの欠席は大幅な減点の対象とする。

テキスト

特になし

参考図書

その都度紹介する